

国語 第6学年 資料を使って、みりよく的なスピーチをしよう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、これまでの経験と今の考えを、資料を使って聞き手に伝える。資料を示すこと自体を目的にせず、口頭だけでは伝わりにくい経験や変化のどこを補うのかを決める。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名「資料を使って、みりよく的なスピーチをしよう」 教材名「今、私は、ぼくは」

2 単元の目標

話し言葉と書き言葉の違いに気付き、聞き手が聞き取れる言い方を使える。資料で補う内容を選び、示す時点や説明の言葉を考えて、自分の考えが伝わるようにスピーチを工夫できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①話し言葉と書き言葉の違いに気付き、聞き手が聞き取れる言い方を使っている。（〔知識及び技能〕(1)イ）

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、資料で補う内容を選び、示す時点や説明の言葉を考えて、自分の考えが伝わるようにスピーチを工夫している。（A(1)ウ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

これまでの経験と今の考えを、資料を使って聞き手に伝える。資料を示すこと自体を目的にせず、口頭だけでは伝わりにくい経験や変化のどこを補うのかを決める。学習指導要領のA(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)イを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

話の中心と資料が示すことを対応させ、なくても伝わる資料は外す。資料の実物や自作の図を使い、出典と写っている人の扱いを確認する。資料を使えない環境では紙を示す位置を試す。おおむね満足できる状況は、資料で補う内容を選び、示す時点や説明の言葉を考えて、自分の考えが伝わるようにスピーチを工夫しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

第1次 第1時：○聞き手と目的を確かめ、これまでの経験から伝えたい考えを選ぶ。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時：○中心となる考えと経験を整理し、資料で補う内容を決める。 評価：知①（語句や内容の整理）

第2次 第3時：○資料を選んで説明の言葉を用意し、スピーチの順を考える。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第4時（本時）：○資料を示す時点と説明の仕方を試し、聞き手の反応で直す。 評価：思①（発言・学習記録）

第2次 第5時：○スピーチを行い、話と資料がどう対応していたかを互いに伝える。 評価：学習状況を見て支援する。

第3次 第6時：○録音やメモを見直し、資料を使った効果と今後直したい点をまとめる。 評価：態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導（4／6）

（1）本時の目標

資料で補う内容を選び、示す時点や説明の言葉を考えて、自分の考えが伝わるようにスピーチを工夫できる。

（2）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「この資料を示すと、話だけの場合より何が伝わりますか。どのタイミングで、どこを示すと分かりやすいですか」

【めあて】これまでの経験と今の考えを、資料を使って聞き手に伝える。

予想される児童の反応：・話と同じ文章を出すだけなら資料は要らない。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「この資料を示すと、話だけの場合より何が伝わりますか。どのタイミングで、どこを示すと分かりやすいですか」

スピーチの中で資料を使って補いたい内容を選び、資料を示す箇所と言葉を原稿に記す。資料を実際に示して発表し、聞き手は何が伝わったかを返す。示す時点や説明の量を変えて再度話し、伝わり方を比較する。

予想される児童の反応：・話と同じ文章を出すだけなら資料は要らない。

・成長の前後が見える記録なら理由が伝わる。

・見てもらう間を取らないと話も資料も追えない。

指導上の留意点：話の中心と資料が示すことを対応させ、なくても伝わる資料は外す。資料の実物や自作の図を使い、出典と写っている人の扱いを確認する。資料を使えない環境では紙を示す位置を試す。

想定する難しさ：写真の枚数や画面の見栄えに力を使う。資料を映して読み上げるだけになる。個人情報を含む写真を不用意に使う。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 資料で補う内容を選び、示す時点や説明の言葉を考えて、自分の考えが伝わるようにスピーチを工夫している。（資料を示す位置を記した原稿・発表と調整の観察）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・見てもらう間を取らないと話も資料も追えない。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この資料を示すと、話だけの場合より何が伝わりますか。どのタイミングで、どこを示すと分かりやすいですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたこ

とを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

